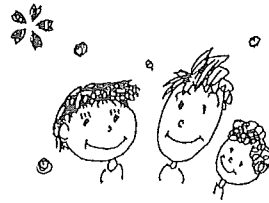


よりのそ



第212号

編集責任: 三好

ボランティアの意識

大阪: 三好 博二

2011.3.11から4年2ヶ月が経過した。当然のことだが状況は変わって来ている。変化に状況に相応して自分の意識も^①不変のもの^②変化して行くものがある。

不変のものは、2011.4.21の朝礼において林崎さんがおっしゃった『被災者によりそう気持ち』『ボランティアをさせていたたいい』という謙虚な気持ちと持続することだろう。

変えて行った方がいいものは、状況の変化に応じてボランティアが行う活動の内容も当然変化していくのでその変化に依る事だろう。

正直言って2013, 2014年は活動をしながらもどこか「こういう活動でいいのだろうか」という意識があった。2013, 2014, 2015年は直接、被災者の顔が見えたり、被災者の家に届く活動は少なかったし、少ない。

しかし、今回2015.5.27から活動してみて、又何人かのスタッフのオマヤボランティアのオマの話も聞いたり、意見交換をしてみて、どうやら自分自身納得したようだ。ボランティアのオマの意識は多種多様で、直接被災者に届く活動(例:瓦礫撤去やお茶の子やマッチングマッチ)に意義を見い出せる人もいれば、現在のまごころ

ネットの何年か先を見越し、被災者の雇用確保や限界集落を元気づける活動に意義を見い出せる人もいらっしゃる。ボランティアのオマの各自の価値感があるのだから、他人がとやかく言う問題ではなからず、それぞれの思いを大切に活動に参加していけばいいと考えます。

やはり来て見る事が大切

私ほど72才になって、この3日間活動してみてもつづく体力の低下を実感する。もう本当に細々と手伝うというか手伝わせてもらっている感じだ。全く役に立たないとはさすがに言うのが辛い。しかし、実際は、おろかなりおろかなりがマシ位の状態になつて来た。それでも2011.4.24のミーティングで阪神大震災の被災者であるボランティアの、今回の東日本大震災で身内をなされたオマのボランティアさんがおっしゃった「何が怖いと言って、忘れる事が一番怖い」とおっしゃった事を肝に銘じて、私は来ているつもりである。たいてい活動はできないけれど、大槌町の現場を見て、まごころネットが現在おていることと実際に見ると、大阪でくろくしてはいるよりのオマリアルに分かる。まごころネットにおきてくろくを見てもいいのかな、と思つてはいる。

5/29 釜石市天洞のブドウ園に行き、草むしりをしました。今日は、5人で活動し、13人のお話も聞けてよかったです。明日はどうの宿泊は2人にしよう。

5/29(金)ボランティアミーティングは

5/29(金)活動 2人, 宿泊 1人

5/30 天気 曇り後晴、気温 高 26℃ 有 17℃
降水確率 10% 30%